

[017] 言語文化論究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/5517>

出版情報：言語文化論究. 17, 2003-02-28. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

退官教官研究業績表

小 野 和 人 教 授

I. 著書

1. 『ヘンリー・ジェイムズ『ねじの回転』へのアプローチ』(共著) 文理書院 88頁(第4章担当) 1970年10月
2. 『アメリカ文学を読む 30回』(共著) 太陽社 448頁(第5章, 第22章担当) 1981年4月
3. 『生きるソロー』(共著) 金星堂 167頁(第3章担当) 1986年4月
4. 『ソローとライシーム: アメリカ・ルネサンス期の講演文化』(単著) 開文社 243頁 1997年4月
5. *Studies in Henry David Thoreau* (共編著) 六甲出版 240頁(全体の編集, 及び第1部第7章担当) 1999年9月

II. 論文

1. 「情熱と挫折(ヘンリー・ジェイムズの『ある婦人の肖像』について)」
Attic Review (京都大学大学院英米文学専攻修了者会誌) Vol. 2, 23-28頁 1965年7月
2. 「立場と意識のドラマ: ジェイムズの初長編作 *Roderick Hudson* について」『長崎大学教養部紀要・人文科学』第6巻 63-78頁 1966年4月
3. 「ヘンリー・ジェイムズの作品にあらわれた場とヴィジョン」『長崎大学教養部紀要・人文科学』第7巻 101-116頁 1967年4月
4. 「ヘンリー・ジェイムズの作品に於ける情景描写について」『長崎大学教養部紀要・人文科学』第8巻 97-112頁 1968年4月
5. 「ヘンリー・ジェイムズの静的状況: その魅力と効果」『視界』(京都大学文学部文学科大学院生及び修了者会誌) 第11号 18-27頁 1968年10月
6. 「ヘンリー・ジェイムズの *The Bostonians* について」『長崎大学教養部紀要・人文科学』第9巻 59-67頁 1968年12月
7. 「ヘンリー・ジェイムズの *The Turn of the Screw* に於ける混沌の状況」『長崎大学教養部紀要・人文科学』第10巻 67-75頁 1969年12月
8. 「*Walden* における自然の場」『広島大学教養部・外国文学』第10巻 73-93頁 1972年4月

9. “Streams in Henry Thoreau’s *A Week on the Concord and Merrimack Rivers*”, *Studies in American Literature* (中・四国アメリカ文学学会誌) No. 11. 17–23頁 1975年1月
10. “Contact with Wilderness” 『広島大学総合科学部・言語文化研究』 第2巻 35–53頁 1977年4月
11. 「Thoreau における内面探究の姿勢と表現」 『九州大学・英語英文学論叢』 第30集 1–18頁 1980年2月
12. 『アメリカ文学の新展開・小説』 (山口書店, 678頁) 分担執筆 (「ジェイムズ・グールド・カズンズ」の章担当) 335–381頁 1983年7月
13. 「『ウォールデン』における講演の要素」 『ヘンリー・ソーロウ協会会報』 第10号 5–10頁 1983年12月
14. 「ポオにおける一人称の語り：「楕円形の肖像」と「告げ口心臓」を中心に」 『九州大学・英語英文学論叢』 第34集 99–114頁 1984年1月
15. 「尾崎喜八と Henry Thoreau：共通の姿勢について」 『九州大学・英語英文学論叢』 第35集 99–116頁 1985年3月
16. 「*A Week on the Concord and Merrimack Rivers* における Thoreau の文体観」 *Albion* (京都大学英文学会誌) No. 31. 57–70頁 1985年10月
17. “Rhetorical Questions in *Walden*” 『九州大学・英語英文学論叢』 第37集 1–12頁 1987年3月
18. 「『野生のリンゴ』の文体について」 『ヘンリー・ソーロウ協会会報』 第15号 11–16頁 1987年3月
19. 「ソーロウとライシーム」 『ヘンリー・ソーロウ協会会報』 第18号 26–31頁 1991年12月
20. 「『ウォールデン』の結論部における四行の引用詩：その原詩と大意」 『ヘンリー・ソロー研究論集』 (日本ソロー学会誌, 誌名変更) 第19号 59–64頁 1992年12月
21. 「ソローの入獄とライン河畔の幻想」 *Albion* (京都大学英文学会誌) No. 41. 57–70頁 1995年11月
22. 「コンコード・ライシーム」 『九州大学・言語文化論究』 No. 7. 13–24頁 1996年3月
23. 「ソローの『ウォールデン』におけるペルソナ」 *The Kyushu Review* (九州大学『九州レビュー』の会) 第1号 1–6頁 1996年10月
24. 「ソローとコンコード」 『別府大学・英語英米文学論集』 第29号 36–48頁 1997年2月
25. 「『生きている道』：ソローの詩「旧マルボロー街道」について」 *The Kyushu Review* (九州大学『九州レビューの会』) 第2号 51–58頁 1997年10月
26. 「『クタードン』の制作過程：メモ、講演から作品へ」 『ヘンリー・ソロー研究論集』 (日本ソロー学会誌) 第25号 20–34頁 1999年5月
27. 「I. Asimov の SF 作品における言語運用の工夫と効果」 『九州大学・言語文化論究』 No. 12 15–28頁 2000年8月
28. “The Sun As a Morning Star: A Study of the Closing Words of *Walden*” 『ヘンリー・ソロー研究論集』 (日本ソロー学会誌) 第27号 1–12頁 2001年3月

29. 「アメリカ・ルネサンス期の文化・文学における宇宙意識：概観」『九州大学・英語英文学論叢』第52集 35-54頁 2002年2月
30. 「ヘンリー・ソローの宇宙意識」『九州大学・英語英文学論叢』第53集 1-21頁 2003年3月

Ⅲ. 翻訳

1. 『アメリカ・南部・南西部』（Rita Stein 原作 *A Literary Tour Guide to the United States: South and Southwest* の翻訳）英宝社（共訳）279頁 担当分10-18頁, 119-133頁, 146-157頁 1982年5月
2. 『メインの森：真の野生に向う旅』（Henry Thoreau 原作 *The Maine Woods* の翻訳）金星堂（個人訳）344頁 1992年8月, 講談社学術文庫 468頁 1994年7月
3. 「月下の自然」（Henry Thoreau 原作 *The Moon* の翻訳）（個人訳）『九州大学・言語文化論究』No.14. 205-220頁 2001年7月
4. 「月下の自然Ⅱ」（Henry Thoreau 原作 *The Moon* の翻訳：続き）（個人訳）『九州大学・言語文化論究』No.15. 141-154頁 2002年2月
5. 「サドルバック山の一夜」（Henry Thoreau 原作 *A Week on the Concord and Merrimack Rivers* からの部分訳）（個人訳）『九州大学・言語文化論究』165-174頁 2002年7月

Ⅳ. 書評

1. 「上岡 克己著『ウォールデン』研究：全体の人間像を求めて」(旺史社『英語青年』8月号 1993年8月)
2. 「ヘンリー・D. ソロー著, 飯田 実訳『コッド岬』」『信濃毎日新聞・読書欄』1996年12月
3. 「伊藤 詔子著『よみがえるソロー：ネイチャー・ライティングとアメリカ社会』(柏書房)『アメリカ文学研究』(日本アメリカ文学学会誌) 114-122頁 1998年2月

Ⅴ. 報告・解説

1. “On *The Maine Woods*”, *Kyushu American Literature* (九州アメリカ文学学会誌) No.19. 67-69頁 1983年5月
2. “The I Narrative in Poe”, *Kyushu American Literature* (九州アメリカ文学学会誌) No.24. 70-72頁 1988年7月
3. 「H. D. ソロー全集資料室」『英語青年』1月号 1991年1月
4. 「ネイチャー・ライティング・ブックガイド」(分担執筆)『ユリイカ』青土社, 分担分 235-237頁 1996年3月号
5. 「コンコード・ライシウム余話」*Volcano* (鹿児島大学英文学会誌) 第26号 1-3頁 1998年3月
6. 『たのしく読めるネイチャーライティング』ミネルヴァ書房 292頁 (分担執筆) 担当

分 36—37頁, 64—65頁 1998年10月

Ⅵ. 大学教科書

1. *An Invitation to American Renaissance* 共編註 英宝社 1981年12月
2. *American Panorama: Story of the Land and People* 編註 南雲堂 1984年2月
3. *Trips and Journeys: Five American Short Stories* 編註 開文社 1990年3月
4. *Chicken Soup for the Soul* 共編註 金星堂 1997年1月

退官教官研究業績表

高 藤 冬 武 教 授

I. 著書

なし

II. 論文

1. 「言葉の二面性：コルネーユの嘘つき男」『大阪樟蔭女子大学論集』第5号，57-62頁，大阪樟蔭女子大学，1967年。
2. 「クレージュの奥方－会話」『フランシア』第11号，28-36頁，京都大学大学院フランス文学科，1968年。
3. 「中世の一面－トリスタンとイゾー」『大阪樟蔭女子大学論集』第9号，37-47頁，大阪樟蔭女子大学，1971年。
4. 「なぜ別れか（1）－近代フランス小説に現れた愛の逆説」『大阪樟蔭女子大学英米文学会誌』第10号，59-69頁，大阪樟蔭女子大学，1973年。
5. 「なぜ別れか（2）－ジッド『狭き門』」『大阪樟蔭女子大学英米文学会誌』第13号，41-54頁，大阪樟蔭女子大学，1976年。
6. 「人生の一断面－モーパッサンの短編」『大阪樟蔭女子大学英米文学会誌』第14号，59-74頁，大阪樟蔭女子大学，1977年。
7. 「ラファイエット夫人再読－動詞〈見る〉(voir)をめぐって」『獨佛文學研究』第31号，127-157頁，九大独仏文学研究会，1981年。
8. 「再読B. コンスタン：『アドルフ』」（1）『獨佛文學研究』第33号，1-19頁，九大独仏文学研究会，1983年。
9. 「再読B. コンスタン：『アドルフ』」（2）『獨佛文學研究』第34号，203-242頁，九大独仏文学研究会，1984年。
10. 「再読B. コンスタン：『アドルフ』」（3）『獨佛文學研究』第35号，1-26頁，九大独仏文学研究会，1985年。
11. 「再読B. コンスタン：『アドルフ』」（4）『獨佛文學研究』第37号，1-27頁，九大独仏文学研究会，1987年。
12. 「再読B. コンスタン：『アドルフ』」（5）『獨佛文學研究』第41号，221-232頁，九大独仏文学研究会，1991年。
13. 「B. コンスタン：セクシュアリティの謎（日記に即して）」（研究ノート）『STELLA』

第10号, 131-136頁, 九州大学フランス語学フランス文学研究会, 1991年。

Ⅲ. 翻訳 (編注・解説)

1. 「B. コンスタン=シャリエール夫人書簡」(1)『ROMANDIE』第15号, 14-19頁, スイスロマン文化研究会, 1992年。
2. 「B. コンスタン:『日記』」(1)『言語文化論究』第4号, 75-87頁, 九州大学言語文化部, 1993年。
3. 「B. コンスタン=シャリエール夫人書簡」(2)『ROMANDIE』第16号, 13-18頁, スイスロマン文化研究会, 1993年。
4. 「B. コンスタン:『日記』」(2)『言語文化論究』第4号, 147-156頁, 九州大学言語文化部, 1994年。
5. 「B. コンスタン:『日記』」(3)『獨佛文學研究』第44号, 231-260頁, 九大独仏文学研究会, 1994年。
6. 「B. コンスタン=シャリエール夫人書簡」(3)『ROMANDIE』第17号, 3-9頁, スイスロマン文化研究会, 1994年。
7. 「B. コンスタン:『日記』」(4)『獨佛文學研究』第45号, 197-221頁, 九大独仏文学研究会, 1995年。
8. 「B. コンスタン=シャリエール夫人書簡」(4)『ROMANDIE』第18号, 27-33頁, スイスロマン文化研究会, 1995年。
9. 「B. コンスタン:『日記』」(5)『言語文化論究』第7号, 143-152頁, 九州大学言語文化部, 1996年。
10. 「B. コンスタン:『日記』」(6)『獨佛文學研究』第46号, 89-112頁, 九大独仏文学研究会, 1996年。
11. 「B. コンスタン=シャリエール夫人書簡」(5)『ROMANDIE』第19号, 3-9頁, スイスロマン文化研究会, 1996年。
12. 「B. コンスタン:『日記』」(7)『九州大学言語文化論究』第8号, 231-243頁, 九州大学言語文化部, 1997年。
13. 「B. コンスタン=シャリエール夫人書簡」(6)『ROMANDIE』第20号, 14-20頁, スイスロマン文化研究会, 1997年。
14. 「B. コンスタン:『日記』」(8)『獨佛文學研究』第47号, 57-79頁, 九大独仏文学研究会, 1997年。
15. 「B. コンスタン:『日記』」(9)『獨佛文學研究』第48号, 109-133頁, 九大独仏文学研究会, 1998年。
16. 「B. コンスタン:『日記』」(10)『獨佛文學研究』第49号, 73-97頁, 九大独仏文学研究会, 1999年。
17. 「B. コンスタン:『日記』」(11)『獨佛文學研究』第50号, 29-45頁, 九大独仏文学研究会, 2000年。
18. 「B. コンスタン:『日記』」(12)『言語文化論究』第13号, 177-201頁, 九州大学言語文化研究院, 2001年。

19. 「B. コンスタン：『日記』」(13)『言語文化論究』第14号, 221-252頁, 九州大学言語文化研究院, 2001年。
20. 「B. コンスタン：『日記』」(14)『言語文化論究』第16号, 175-229頁, 九州大学言語文化研究院, 2002年。
21. 「B. コンスタン：『日記』」(15)『言語文化論究』第17号, 71-119頁, 九州大学言語文化研究院, 2003年。

Ⅳ. 雑

1. 「なみだがわ」『浪漫派』第12号(保田與重郎追悼), 102-105頁, 出雲書店, 1982年。
2. 「敷松葉の色気」『保田與重郎全集』(第33卷月報), 6-8頁, 講談社, 1988年。
3. 「生田耕作先生のこと-思い出すままに」『イクタコウサク』, 117-130頁, 騎虎書房, 1997年。
4. 「フランス文学と恋愛」『プシコ』, 54-55頁, 冬樹社, 2001年。
5. 「ある日の鳴瀧終夜亭」『保田與重郎文庫』(第27卷解説), 245-251頁, 新学社, 2002年。

退官教官研究業績表

廣 田 稔 教 授

I. 著 書

1. 『ワイルドフェル ホールの住人』(共著) (『ブロンテ研究』開文社 1983 pp.195~225)
2. 『嵐が丘-西欧ロマン主義の一系譜-』(共著) (『愛のモチーフ』彩流社 1995 pp.193~207)
3. 『嵐が丘』論-解明への試み(共著) (『ヴィクトリア朝の小説』-女性と結婚-英宝社 1999 pp.59~84)

II. 論 文

1. 「HeathcliffとCatherine-その心理的展開」1966 Cairn No. 7 pp.14~26
2. 「Charlotte Brontëに見る独立自尊の精神」1966 Cairn No. 8 pp.12~23
3. 「Anne Brontëに見る宗教性」1968 佐賀大学英文学紀要2号 pp.13~41
4. “The World of Loneliness and Innocence in *Wuthering Heights*” 1970 佐賀大学教養部紀要2号 pp.19~45
5. “Emily Brontë and Her Celtic Background (I)” 1972 北九州大学開学25周年記念論文集 pp.537~558
6. “Emily Brontë and Her Celtic Background (II)” 1973 北九州大学文学部紀要8号 pp.1~16
7. 「ジェイン・オースティンの文学-その思惟構造をめぐって」1973 北九州大学文学部紀要9号 pp.37~61
8. 「オースティンの文学とブロンテ姉妹の文学-その対比的考察-」1974 北九州大学文学部紀要10号 pp.39~65
9. 「ブロンテ姉妹と小説の伝統」1975 佐賀大学英文学研究 pp.84~102
10. 「エミリー・ブロンテとエドガー・アラン・ポー『嵐が丘』と『アッシャー家の崩壊』との接点」1977 九州大学英文学論叢27号 pp.115~136
11. “The Elements of American Romance in *Wuthering Heights*” 1980 九州大学英文学論叢30号 pp.57~75
12. 「*The Professor*-その手法と限界」1981 九州大学英文学論叢31号 pp.39~64
13. 「*Jacob's Room* 試論」1984 ヴァージニア・ウルフ協会創刊号 pp.23~33
14. 「ヴァージニア・ウルフ研究-ウルフにおける新しい小説の試み」1986 九州大学英

文学論叢36号 pp.31~54

15. 「アン・ブロンテそのモラリスティック的資質と発展」1988 九州大学英文学論叢38号 pp.43~69
16. 「*Pincher Martin* 考—ギリシャ悲劇との接点」1989 九州大学英文学論叢39号 pp.29~50
17. 「自然愛から人間愛へ—独歩におけるワーズワース的感性」1990 比較文学（日本比較文学会）第33巻 pp.7~19
18. 「ワーズワース『序曲』第3巻—long-back'd から long-roof'd をめぐって」1997 九州大学英文学論叢47号 pp.1~13
19. 「ブロンテ研究ノート—『嵐が丘』再考」1997 九州大学言語文化部論究8号 pp.89~100
20. 「アン・ブロンテ研究ノート—作家のテーマと執筆の目的」2000 九州大学言語文化部論究 pp.1~8
21. 「写真と想像のはざま—『意識下の意識』ワーズワースの詩想への一考察」2001 九州大学言語文化研究院言語文化論究13号 pp.1~13
22. 「藤山治一のドイツ語シーボルト論事情—ハンス・ヨアヒム・クナウプ氏の論考を基に—」2002 九州大学言語文化研究院言語文化論究16号 pp.53~64

Ⅲ. 翻訳・辞典等

1. 「マンスフィールド短篇集」1986 開文社（編註）
2. 「ウィリー・エリン」翻訳 1995 『ブロンテ全集第1巻』 みすず書房
3. 「講談社キャンパス英和辞典」分担執筆 1998 講談社 C項, S項
4. 「研究社ブロンテ姉妹小辞典」において「嵐が丘」及び「ジェイン・エア」を担当執筆 1998 研究社

Ⅳ. 書評

1. “Anne Brontë The Other One” 1991 「ブロンテ・スタディーズ」日本ブロンテ協会
2. 「ブロンテ姉妹の時空」1998 「ブロンテ・スタディーズ」日本ブロンテ協会
3. 岡田愛子著「魂と風景のイギリス小説」南雲堂 2001年 2002 日本比較文学会『比較文学』第44巻

Ⅴ. その他

1. 重要文化財菊屋住宅（毛利藩御用商家）英文パンフレット 1984 山口県萩市
2. グレグ・テイラー：「萩—維新胎動の地」National Geographic 誌 翻訳 1986 朝日新聞に記事
3. 『ワイルドフェルホールの住人』の不完全版と冒頭の省略 1991 Brontë Newsletter of Japan 日本ブロンテ協会

4. 「ケンブリッジーキャムの流れに寄せて」1993 九州大学言語文化部フォーラム
5. 「ケンブリッジと文人たち」1993 日本比較文学会九州支部大会報
6. 「追憶の夏」1994 「流域」所収 青山社
7. 「ペンブローックカレッジとJ. プリン先生」1997 日本比較文学会九州支部会報